



平成21年12月7日

卓話 『ポール・ラッシュと清里環境教育』

財団法人キープ協会 専務理事

正木 実様

皆さんこんにちは。今日はポール・ラッシュの生涯の軌跡、またキープが取り組んでいる環境教育についてお話しさせていただきます。

キープ協会はポール・ラッシュの創設で、現在は財団法人として青少年教育、環境教育、国際交流、地域振興などの事業活動をしています。彼は1897年ケンタッキーに生まれ、1925年、関東大震災の復興員として来日しました。翌年から立教大学で教鞭を取り、28年から31年には聖路加国際病院の創設者であるトイスラー博士の要請で病院建設のための募金活動に奔走、当時の金で260万ドルの募金に成功します。38年には青年の指導者育成のため山梨県清里に指導者訓練キャンプ場を設立しますが、開戦で42年に強制送還されます。彼は送還後すぐ陸軍の日本語学校に入隊しますが、非凡なのは、終戦後の日本の再建計画、構想をこの時すでに策定していることです。強力で民主的な日本なしにアジア・太平洋の安全と繁栄はおぼつかない。将来、日本は必ずアメリカの良き友人になると各州を講演しています。

彼は終戦と同時に再来日し、GHQのセクションのチーフとして働いています。当時彼は2つの大きな任務がありました。8時間は占領政策のため、あとの8時間は天皇を守り日本国民を救済するため、一日16時間働いていると言っています。10月に皇居を視察した時、彼は西園寺公の秘書の原田熊雄の日記、これは大正から開戦に至るまでの西園寺公の折々の談話をメモしたのですが、それを借り受けて翻訳し、東京裁判に提出します。これが大変貴重な資料

として、天皇の戦争責任回避に役立ったと伺っております。

次にキープ協会が取り組んでいる環境教育です。私は1984年、環境教育の視察にアメリカにまいりました。その中にニュージャージー州立の自然保護学

校がありました。私はそれまで日本の野外教育に対して、知識の注入であることや都会の原理を自然界に持ち込んでいるという点で矛盾を感じていましたが、その学校では州と大学機関と民間がうまく連携して子供たちをきちっと指導していました。非常に学際的で、人文学、地域の歴史、文化、芸術、全ての環境を網羅し、それをプログラム化している。またプログラムの中に弱者への配慮や民主的な思想が取りこまれていることなどに大変ショックを受け、そこで85年からキープでも取り組むようにしました。環境保全、温暖化防止には国家間の法規制と環境技術開発が大事ですが、この二つを支えるのはやはり人。ですからキープ協会の取り組みはまず人づくり。環境マインドを持ち、それを実践し伝えられる人、環境と経済を融合できる人、そういう人材を清里の豊かな自然の中で育てられればと考えております。

ポール・ラッシュは生涯を通して日本と日本人のために献身しました。私たちはポール・ラッシュの精神を継承し実践しております。ありがとうございました。

